信濃毎日新聞　2023 年 12 月 14 日（木）

16歳で気象予報士合格

松本秀峰4年・米久保さん 1年間の勉強成果

松本市の6年制中高一貫校、松本秀峰中等教育学校4年（高校1年）の米久保敬吾さん(16)＝松本市県＝が、8月に行われた気象予報士試験に合格した。試験を実施する気象業務支援センター（東京）によると、今回の合格者206人の平均年齢（10月の合格発表時点）は34・8歳で、米久保さんを含め3人の16歳が最年少。合格率は4・8％で、1年間集中的に勉強して難関を突破した。

米久保さんは小学生の時に訪れた福井県の博物館で、昔の気候を再現する研究の展示を見て「気象学って面白いな」と興味を持った。中学3年の夏を迎え、「高校受験がない分、何かを究めたい」と、気象予報士試験の勉強に取り組み始めた。

試験は、大気の構造や気象現象、関連法規などの知識を問う「学科」と、与えられた天気図などを読み取って予報を記述する「実技」がある。バスケットボール部に所属する米久保さんは、学校の勉強と部活動と並行し、1日2時間以上、気象の学習を継続。「学科は覚えることがとにかく多かった。学校でまだ習っていない物理の知識が必要な問題もあり、大変だった」と振り返る。

今年1月の試験で学科に合格。8月の試験は学科を免除されるため、実技の勉強に集中し、過去に出題された問題をひたすら解いたという。試験時間は75分だが、50分ほどで解けるようになった。手応えを感じた状態で本番の試験に臨み、合格を果たした。

「1年間勉強を続けてきたのでうれしい」と米久保さん。試験を通し、気象予報士について「予報をするだけでなく、気象庁が出す情報を一般の人に分かりやすく翻訳する仕事だと感じた」と話す。卒業後は大学で気象学を勉強したいといい「台風の仕組みは未解明なことが多いので、研究してみたい」と、さらなる学びに意欲を燃やしている。

気象予報士試験に合格し、登録通知書を手にする米久保さん

「大学で台風の研究を」意欲さらに

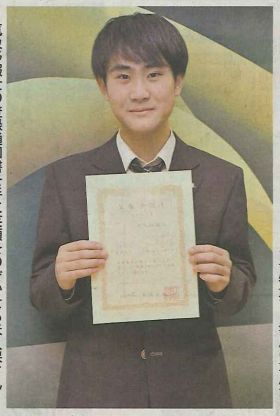
市民タイムス　2023 年 12 月 14 日（木）

16歳 難関突破！ 気象予報士に

米久保敬吾さん（秀峰4年）

合格率5％前後という難関国家資格「気象予報士」の試験に、松本市の米久保敬吾さん（16）＝松本秀峰中等教育学校4年＝が合格した。学業と部活動の合間にこつこつと勉強を重ね、目標に据えた「2回目の受験」で見事合格をつかみ取った。

（田中祥子）


気象予報士の登録通知書を手に笑顔をのぞかせる米久保さん

地元の源池小学校から秀峰に進学した米久保さん。バスケットボール部に所属し「体を動かすのが好き」なスポーツマンだ。一方、「新しい知識を得るのが楽しい」と好奇心旺盛で、昨夏に「高校受験がない分、何かを極めたい」と思い立った。幼い頃に訪れた博物館で、湖底の地層から大昔の気象や気候変動を読み解く展示に夢中になったのを思い出し「気象のことをもっと知りたい」と気象予報士試験の受験を決めた。

試験には学科と実技がある。学科は1度合格すれば、1年以内の再受験で試験を免除されるため「2回で受かろう」と決めた。毎日1日2時間以上、参考書や過去問に取り組み、1月の試験で学科に合格した。

しかし、実技試験は不合格で、難しさに打ちのめされた。天気図からデータを読み取り、局地的な気象の予想などを行う1問75分の難問を二つ解かなければならない。過去問に取り組むも「最初は倍の時間をかけても解けなかった」。それでも諦めず、8月の2回目の実技試験までに10年分の過去問と向き合った。

勉強重ね２回目で合格

10月、自宅に届いた合否を告げるはがきを友達と確認し「合格」の2文字に思わず叫び声を上げた。解いてきた過去問を並べ、喜びをかみしめた。

合格で満足することはなく、気象への興味と関心は尽きない。米久保さんは「まずは大学で、気象学をもっと深く学びたい」と目を輝かせる。

試験を主催する気象業務支援センター（東京）によると、米久保さんが合格した8月の令和5年度第1回（通算第60回）試験の受験者数は4290人。合格者は206人だった。